「彼ら」が決して教えようとしない、
毎日の厄介で煩わしい慢性的痛みから
解放される暮らしについて、私がお教えしましょう…

私は、お金や経済的成功、健康など、あらゆる事柄の「秘訣」に関するリサーチャー、ライター、パブリッシャーとして、数十年を費やしてきました。しかし、人生を変える力を持つ**『痛みから解放された暮らし大全』**ほど、のめり込んだものはありません。

なぜ、痛みを取るためのこれらの秘訣が
夜の報道番組では絶対に紹介されないのか？

テレビ広告に最もお金を使っているのは、ソフトドリンク業界でも自動車業界でもありません。それは製薬業界です。開けても暮れても処方薬（それも、危険な副作用を伴った）を勧める宣伝です。テレビ業界は大手製薬会社の恩恵に浴しているのです。つまり、こうした製薬会社に「所有されている」わけです。危険な薬に関する真実を伝えてあなたを守る気などさらさらありません。ましてや、自然の鎮痛手段に関する驚くべき秘訣など、伝えるわけがありません。大手雑誌、医学研究論文を発行する大学、または一部のニュースレターでさえ、巨大資本を有する製薬会社から甘い汁を吸い続けています。ですから、効果的なハーブのことなど、あなたに教えるわけにいかないのです。窓辺の箱の中で育てることができて、おいしいお茶にすれば、Advil(R)やTylenol(R)よりも、炎症や関節炎によるひざや手の痛みを効果的に防いでくれ、しかも、肝臓や腎臓などへの副作用もないハーブのことなど、決して教えようとはしません。しかし、私がお教えします！

『AARP会報』を1冊手に取り、製薬会社の有料広告の数を数えてみてください。AARPは真に「独立」した団体でそうした企業の薬について、真実を率直に伝えることができるでしょうか？　また、地元のファーマーズマーケットで手に入れた素材を台所で混ぜ合わせてできる、より安価で安全で効果的な代替薬について教えてくれるでしょうか？　関節炎財団でさえ、最も高い金額で入札した企業に「同財団により承認済み」のお墨付きを販売しているのです――そうです。本当に販売しているのです。

製薬業界はドル箱産業です―そして、処方薬は最高のドル箱です。「痛み」はビッグビジネスなのです！！！　マスメディアは、こうした医薬品の押し売り会社の奴隷です。我々の健康を守るはずのFDA（食品医薬品局）でさえ、そうした企業と相互に癒着し、そうした企業に依存しています。自然治癒療法が認められ、製薬業界が縮小すれば、FDAも縮小することになるため、官僚たちはこれまでの特権と潤沢な恩給に満ちた快適な仕事を決して手放したくないのです。しかし、人々は政府の陰謀という事実をどうしても疑うことができません。――でも、証拠はいくらでもあります。国税庁がティーパーティー運動のグループやその他の保守派を明らかにターゲットにしていること。AP通信社の記者の電話やEメール記録への司法省による侵入。ベンガジ襲撃事件の真相の隠ぺい。膨大な数のアメリカ人に対するとんでもない大量の情報収集と盗聴。これについては、民主党員も共和党員も、活動的な政治家は厳しく批判しています。こうした例は後を絶ちません。残念ながら、政府も医療機関も大手マスコミも信用できないのです。

これは残念なことです。皆さんだって、本当は私と同じように愛国者なのではないでしょうか。この国のために戦ったこともあるでしょう。皆さんも、私と同じように、ウォルター・クロンカイトやハントリーやブリンクリーが伝える、信頼性の高いニュースを見て育ったのではないでしょうか。あるいは、勇気あるエドワード・R・マローのことを思い出す方もいるかもしれません。私たちは皆、選挙で選ばれた指導者の誠実さを信頼し、マスメディアが真実を伝えてくれると信じていましたよね。医者のことも信頼して育ちました。しかし、**“時代は変わった”**のです。勝手口の鍵や車の鍵を開けたまま、「ちょっとそこまで買い物に出かけられたこと」を思い出しますね。子どもの頃、親から外で遊んできなさいと言われ、「夕食の時間に間に合いさえすれば」、近所を自由に行き来していい時代があったのです。こうしたことも“すべて”変わってしまいました。皆さんに強要されつつある薬に関する完全で公平な真実についても……痛みから解放された、

より安全で健康的な生活に関するアドバイスについても……病院や老人ホームの世話にならないことについても……好むと好まざるとにかかわらず、“すべて”変わってしまったのです。

ジャック・パーによる有名な問いかけ：
“誰を信じるのか？”

もはやニュース番組、新聞、政府、医者さえ、すべてを話してくれると信頼することはできません。すべての選択肢を示してくれることはありませんし、ましてや自宅でできる自然療法について教えてくれることは「ない」でしょう。一般的な65歳以上の人々は、**「5〜7種類の処方薬」を飲んでいます**。すべて副作用とリスクを伴ったもので、1つ問題が解決すれば、また別の問題を抱えることになります。そのパターンはこうです。ある薬を飲み始めます。すると、その「作用増強薬」が必要になります。そこで、最初の薬によってもたらされた症状やリスクに対処するための別の薬が必要になります。[ページ数を挿入]ページをご覧ください。鎮痛剤のうち処方薬に加え、店先で全く普通に売られている市販薬のリスクと副作用を示したものです。私は皆さんに断言します。彼ら——製薬会社、それらの広告代理店、「コンサルタント」として雇われた医師——は皆、**多くの薬を飲み、市販薬を消費してくれる高齢者の数を増やそうと努力しているのです。**

では……誰を信用すればよいのでしょうか？

ピュアコア・ウェルネスは皆さんの味方です。私が集めた一流のリサーチチームが、痛みから解放された生活に関係する、すべての事柄について、客観的で公平な最高の情報を求めて、深く広範な調査を行います。当社は信頼に足る情報源を見出します。当社は情報を念入りに精査します。

（以下省略）